

私立大学研究ブランディング事業 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	131021	学校法人名	駒澤大学		
大学名	駒澤大学				
事業名	『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	13584人
参画組織	8学部（仏教・文・経済・法・経営・医療健康科・グローバルメディア・ステージ・総合教育研究部）、1研究科（法曹養成）				
事業概要	現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、①現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、②多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、③坐禅の身心への影響を科学的に検証し、④全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。				
①事業目的	1. 禅（ZEN）の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、新たな提言を行う。 2. 禅（ZEN）の研究を、超領域的に行うことを通し、新たな視座を獲得する。 3. 禅（ZEN）思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を科学的に検証する。 4. 上記の1. 2. 3. を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する全学的な組織（禅研究センター）を設置する。				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	（実施目標） 2017年度は、学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業（以下、「禅ブランディング事業」という。）を所管する学内組織の設置準備や社会への広報活動を行う。				
③平成29年度の事業成果	①研究4チーム（曹洞禅とその源流研究チーム〈以下、「源流チーム」という。〉・禅の受容と展開研究チーム〈以下、「展開チーム」という。〉・禅による人の体と心研究チーム〈以下、「身心チーム」という。〉・禅と現代社会研究チーム〈以下、「現代社会チーム」という。〉）による研究活動として、会議・研究会を合計30回程度行い、成果物としてHP用コンテンツを約15件作成した。禅ブランディング発信事業チーム（以下、「発信チーム」という。）により禅ブランディング事業ホームページを作成・公開し、HP用コンテンツ8件を掲載した。 ②禅ブランディングメンバー向け勉強会4回、学内向けイベント6回、外部向けシンポジウム1回を開催した。 ③事務運営では、研究活動推進委員会4回、禅ブランディングプロジェクトチーム会議4回、チームリーダー連絡会26回を行い、事務所管として、禅文化歴史博物館内に禅ブランディング推進係を新設し、研究チームの支援体制を整えた。 2017年度初段階では研究3チームと発信チームの4チームによる構成であったが、新たに源流チームが加わり、研究活動を拡充させた。				
	（自己点検・評価） 【点検・評価（効果が上がっている事項）】 ①各チームによる研究が進み、その成果を公開するHPも完成した。 ②禅ブランディング事業参加教員や学内向けの勉強会・イベントを多く開催した。 ③禅ブランディング事業に対する事務支援体制の整備を進めた。また、チームリーダー連絡会を定期開催することにより研究チーム間の情報共有を図り、研究活動推進委員会、禅ブランディングプロジェクトチーム会議の開催により学内全体への当事業の取り組みの周知に努めた。 【点検・評価（改善すべき事項）】 ①現状ではHP等にて公開しているコンテンツの少なさが課題であると認識している。 ②外部向けのイベントが少なかったことが課題であった。				

<p>④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(外部評価)</p> <p>◎明林寺住職・西田正法 氏</p> <p>【事業全体に対する評価】</p> <p>○当該事業の適切性・妥当性について</p> <p>禅を一言で表せば「縁起の体感」ではなかろうか。第二次大戦後協調を歩み始めた世界であったが、また対立の中で混迷を深めている。斯かる世界情勢の中で、縁起の体感を根底とした禅からの提言は、対立しながら平和を希求する人々に対して、新たな視座を開くことは疑いのないことである。本事業の適切性・妥当性は、世界的な注目を集める禅を、客観的学問的立場から正しく伝えることで、仏教が有する縁起に立脚した智慧を、理性的に世界に伝える機会を創出出来ることにあると思う。8学部、1研究科が連携して進める本事業は、関係者自身がこの縁に出遭えたことを喜びとして、この善縁を世界に広げる意気込みで取り組んで下さるよう願います。</p> <p>○当該事業による目的の実現可能性について</p> <p>自己点検・評価の②において「禅ブランディング事業参加教員や学内向けの勉強会・イベントを多く開催したが、外部向けのイベントが少なかったことが課題であった。」とあったが、広汎に渉る本事業は、先ず関係者全員が禅に対する理解を共有することが事業成功の鍵となると思う。次に、本事業がエゴ（個人・国家・民俗・宗教）により行き詰まった世界情勢に、大きな一石を投ずる有意義なものであるという本事業の価値を共有し、学長を基点に全学的ネットワークを構築することが事業の第一歩と考え、先ずは学内の充実が大切であると思う。</p> <p>◎多摩大学経営情報学部教授・趙 佑鎮 氏</p> <p>【事業全体に対する評価】</p> <p>○当該事業の適切性・妥当性について</p> <p>平成28（2016）年度に採択された本事業は、『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業に向け、禅を中心とした学部横断的な連携による新しい研究領域の開拓として、駒澤大学における既存研究実績の蓄積をさらに深化させ、また新たな視点を取り入れ進化していく本事業は、駒澤大学をより一層発展させるための駒澤ブランドを明確にする事業足り得るものであり、その適切性・妥当性について高く評価する。</p> <p>また、各チームにおける研究テーマ設定が、大学のステークホルダーと一般社会人に興味を誘発させるようになっており、大学ブランディングに広く貢献できるものと思われる。</p> <p>○当該事業による目的の実現可能性について</p> <p>禅ブランディング事業 5ヵ年計画の2年目となり、チーム毎の研究内容も本格的となり、関係部門との連携による活発な勉強会・研究会が多数開催され、より深まりと広がり期待できる展開になっている。また、ウェブサイトの特設ページにより研究事業が的確に発信されており、今後の研究と発信の充実により、目的の実現に非常に期待が持てる。</p> <p>何よりも大学内の学部と事務局横断の組織体制を意識しており、かつ、HPのコンテンツと外部向けのイベントの少なさを課題として自己認識しているだけに、マーケティング志向に立脚した今後の着実な事業展開ができるものと予想する。</p>
<p>⑤平成29年度の補助金の使用状況</p>	<p>2017年度の事業経費として 31,838,775円を使用した。</p> <p>経費使用の主な目的は、研究組織の体制整備、各種イベントやセミナーの開催、本事業の広報活動、事務組織の拡充等である。</p> <p>主な使用状況は、禅と大学ブランドに関する調査費用、本事業のホームページの開設とコンテンツ充実のための調査・視察費用、イベント・セミナー等の開催費用、本事業の事務組織拡充による物品の購入費用等である。</p>